

創想館地階閲覧室における夜間無人開室

さくまきみこ
佐久間公子

(理工学メディアセンター)

昼間のサービスと同じでなくても夜間なりの利用のニーズに合致した図書館サービスを行えば、活発な図書館利用が期待できるのではないか。理工学メディアセンターは、従来から要望のあった夜間開室に対して、利用者にアンケートやインタビュー、時間別利用実態調査を実施し、運用経費等を含めて総合的に検討した結果、学習の場を提供するという点に注目し、自動入退館ドアが設置された創想館地階閲覧室（以下、地階閲覧室）の夜間開室を、実施することを決め、2004年1月に約1ヶ月間の試行を経て、同年4月から運用を開始した。さらに、利用者が多い春・秋学期の試験期間に対して、翌朝7時30分までの延長開室を試行し、本年度から正式に運用している。

1. 夜間開室・24時間開室の概要

夜間開室は創想館地階のみを対象としている。座席数は、42席だが、試験期には隣接するプレゼンテーションルーム(18席)を開放し、最大60席を提供している。閲覧室机には、情報コンセントと電源があり、衝立が前と左右に置かれ、学習に集中しやすい環境となっている。

閲覧室内には、各種辞書類のほかは殆ど資料が無いが、全館閉館時から継続して夜間開室を利用する場合は、貸出手続きをしていない図書資料(学位論文を含む)を持ち込み利用できる。夜間開室時専用のブックポストを設置して、未貸出の資料や貸し出した資料を返却可能にしているためである。

夜間無人開室時は、地階の自動入退館ドアが出入口になるため、利用希望者は夜間開室開始前までに地階出入口のICカードの利用を申請する。この際に記入されたICカード申請書は夜間利用者リストとなる。

初めての利用者には、ICカードと共に利用説明書を配布する。また、帰宅の時間が深夜になる利用者もいるので、安全に帰宅できるように掲示で注意を促している。

利用者は、帰宅時にICカードを閲覧室内の返却ボックスに入れることになっている。万が一忘れた場合は、深夜に入れに戻らなくてもよいよう、返却期限は翌開館日の午前10時に設定している。

2. セキュリティシステムの導入

夜間開室を無人で行うために、地階閲覧室には、以下のような危機管理の対策が講じられている。

・自動入退館ドア

地階閲覧室入口は、ICカードを読ませて、正規の利用者だけが入室できる。ドアが開放されたままの状態になると、警報音を発し、警備室に通報される。夜間開室の開室時刻は年間で複雑に変化するため、自動入室用のカレンダータイマーと一般の鍵(全館閉館時に施錠する)を両用している。一方、地階閲覧室から1階閲覧室に通じる階段には夜間、シャッターを下ろしている。

・図書無断帯出防止装置(BDS)

資料の無断持ち出しを防止するために、ブックディテクションシステム(BDS)を設置した。未貸出資料を持って出口ドア近くのゲートを通ると、ゲート上部の緊急ランプが点滅し、そのまま警備員がくるまで待つことを指示した放送が流れる。

放送と同時に、警備室内に設置したテレビドアホンの呼び出し音が鳴る。警備員はモニターテレビで確認後、直接閲覧室に行き、利用者に注意を与え、適切な処理をする。警備員は、メディアセンターで作成したBDS対応マニュアルに添って対応する。

・防犯カメラ

夜間開室時間内の記録と不正行為の抑止を目的に、利用者からも“カメラ”と認識できる形の、防犯カメラを出入口に増設した。映像は、創想館1階事務室内のビデオレコーダーにデジタルデータで記録し、約1ヶ月間保存できる。また閲覧室内を常時見渡せるモニターカメラが、2台設置されている。

・緊急連絡システム

緊急時には、BDS作動時に使用するテレビドアホ

表 1. 創想館地階夜間開室時間・24 時間開室時間

		夜間開室	24時間開室(試験期)
開講期	平日	21:30～24:00(試行期間は23:00)	21:30～翌朝7時30分
	土曜	20:00～24:00(試行期間は23:00)	20:00～翌朝7時30分
休業期	平日	19:00～24:00(試行期間は23:00)	
	土曜	18:00～24:00(試行期間は23:00)	

ンのスピーカーを使って、利用者はいち早く警備員に連絡ができる。また内線電話も設置し、関係部署の連絡先を明記し、緊急時に備えている。

・警備員の対応

夜間開室中は警備員が、定期巡回をする。災害時の避難誘導等のバックアップもある。閉室後の消灯も警備員が行う。(閲覧室が閉室時間前で無人の場合は、消灯は利用者に依頼している)

深夜室外に出るには、警備室横の出入り口を利用する。幸い、地階閲覧室横に警備室があるため、警備員が直ぐに対応できる環境にある。

3. 夜間開室の利用状況

2004 年度の 1 日の平均利用者数は、14.2 名で、利用者は増加傾向にある。また、試験期(1月・7月)は利用者が急増する。この時期の学部3年生の利用は46%となった。8月は大学院入試があるためか比較的利用が多く、学部4年生の利用が6割を超えた。全体では、約8割が、理工学部・理工学研究科の学生で、各学科・専攻から満遍なく利用されている。その他の学部や研究科からも広く利用されていることが、利用者の分析から判る。

利用の多い試験期(7月12日～31日と1月17日～2月3日)には、24時間開室(翌朝7時30分閉室)を試行した。一日平均利用者数は、春学期が39.1名、秋学期が46.1名であった。早朝に帰宅する利用者も多く、閉室時間まで在室する利用者も平均5名いた。期間中、満席になった日は、7月は17日中6日、1月は16日中8日あり、ICカード60枚がすべて貸出されてしまい、利用が出来なかった利用者もいた。

4. 利用上の問題

通常の夜間開室時には起こらなかった問題が、24

時間開室では生じた。荷物の置き放しや弁当の空き箱等がゴミ箱にあふれ、深夜戸外で大声で話す者・閲覧室の床で寝る者・閲覧室以外の場所に行く者などが現れた。早速、マナー違反の利用者に対して、「利用上の注意」の配布や掲示で注意を喚起し、利用者の自覚を促した。飲食とそれに伴うゴミに対しては、閲覧室外にベンチを設置し、ゴミ箱を増設した。また、飲食等の場所を指示した。

これらの未然防止対策として、マナー教育の実施・利用者への啓発並びに注意の喚起・定期巡回の強化等が考えられる。予め想定されたものも予測できなかったものも、それぞれに対応基準を定め、個々の問題に迅速に対応していく必要がある。

5. おわりに

当センターでは、全館の開館時間についても利用実態や夜間開室の現状、また諸条件を検討し、2005年4月から1年間の予定で、土曜日2時間、平日の授業期間30分、休業期間1時間ずつ、開館時間延長の試行をしている。

夜間開室時も利用者が、様々な情報を収集できるように、インターネットや電子ジャーナル等が利用できるパソコンの設置を予定している。

夜間無人開室・24時間開室は、各関係部署のバックアップがあってこそ、運用できている。今後もこの夜間におけるサービスを維持・充実するには、矢上キャンパスを初めとして、他関係部署との協力や連携が必要となっていくであろう。

参考文献

- 1) 新谷知之. 東海大学伊勢原図書館の24時間開館. 現代の図書館. vol.37, no.4, 1999, p.234-240.
- 2) 山本浩之. 国際基督教大学の延長開館. 現代の図書館. vol.37, no.4, 1999, p.241-246.